



日本共産党
北茨城市委員会
磯原町豊田1030-2

毎週 日曜日 発行

市議団
ニュース

ご相談は
お気軽に

市議会議員
福田 明
43-0468

市議会議員
鈴木やす子
42-2462

市議会
産業建設委
行政視察

新鋭の清掃センターを視察 「ガス化溶融炉」の利点と欠点

11月11～13日、市議会の産業建設委員会では、静岡県掛川市と愛知県知多市の清掃センター、および愛知県岡崎市の「おかざき水とみどりの森の駅事業」を視察しました。これに参加した福田明議員が報告します。

政府がすすめた新方式

北茨城市の清掃センターは、稼働以来すでに30年が経過し、老朽化もすすんでいます。そうした状況もふまえて、清掃センター施設

を新しく建設した掛川市と知多市を視察しました。

両市とも、従来の焼却炉（ゴミを燃やして灰にする「ストーカ方式」）とはちがって、ダイオキシン対策を契機として政府が推進をはかった



予算要求

日本共産党市議団は11月20日、豊田稔市長に2010年度予算要求書を提出し、懇談しました。

（くわしくは次号にて報告）

「ガス化溶融炉」を採用しているのが特徴です。

ガス化溶融炉とは、簡単に言うと、焼却した灰をさらに高温で溶かしてスラグ（砂状のもの）にするものです。最終的に排出されるスラグの量は灰に比べて約3分の1に減少し、埋立て処分場の延命にもつながることです。掛川市ではこのスラグを道路等の覆土に利用したり建設資材として販売もしています。

さらに溶融炉は、焼却炉に比べて二酸化炭素やダイオキシンの排出量が少ないのも利点とされています。いっぽう今回の視察では、その欠点もつぶさに見聞することができました。

危険性と高コスト

一つは、溶融炉の危険性です。この方式はドイツで開発されたものですが、まだ採用しているところは少なく、稼働の蓄積がほとんどないなど、いわば開発途上の方式だという点です。先行した自治体では事故

が相次いで発生し、視察した両市とも稼働当初に火災や爆発事故を起こしています。一度トラブルが起きると、これまでの焼却炉に比べて修復に時間がかかるという問題もあります。

二つめの問題は、さまざまな機械装置が必要のため、建設費も維持管理費も、きわめて高つくという点です。一口に溶融炉といっても、製造メーカー（掛川市はタクマ、知多市はIHI）によって仕組みが微妙にちがっています。炉を運転するには、それぞれの特徴を熟知した高度な知識と技量が必要で、結局、炉を建設した企業またはその関連会社に運転を委託せざるをえなくなるのです。

この間、各自自治体がゴミ処理施設を建設するばあいに、政府は可能な限り広域化で大型炉を建設しなければ補助金は出さないととして、溶融炉方式をすすめてきました。そうした国の方針どおりに溶融炉を採用した自治体では、莫大な建設費や維持管理費に悩まされているのが実情です。

知多市の清掃センター所長は「これから造るなら、溶融炉はやめたほうがいい。



高速道の友部SAで配布された「お楽しみ券」も好評でした。



花園もーる 紅葉まつり

今年の「花園もーる紅葉まつり」は、東京から写真愛好家などを乗せた大型観光バスも乗り付けるなど大にぎわい。一時は道路も渋滞をきたすほどでした。（11月15日）

一番いいのはストーカ方式の焼却炉だと思う」と、率直に述べていました。

北茨城市でも、清掃センターの建設が日程にのぼれば、炉は安全性を最優先し、各地の経験を参考にしながら環境的にも経済的にも優れたものを選択したいとの思いを強くしました。

最後に、視察ならではの発見もありました。

岡崎市は徳川家康の生地であり、またNHKの連続ドラマ「純情きらり」の舞台ともなりました。そのドラマに出てきた「八丁味噌」は、岡崎城から八丁離れた場所にあるというのが名の由来らしい。

城の公園の案内板には「かつて岡崎城の敷地は現在の2倍の広さがあったが、国

道1号線が公園内を分断してしまったため、約半分は狭められた」と記されていました。

国道1号は、徳川幕府を倒した明治新政府がつくったものですが、家康生誕の地のご真ん中に、いとも簡単に道路をつくる感覚は歴史の妙でしょうか。ちなみに、現在の皇居（かつての江戸城）の下を地下鉄は一本も走っていません。

12月定例会市議会の予定

- 11月30日(月) 初日(議案提案)
- 12月4日(金) 一般質問
- 12月8日(火) 産業建設委員会
- 12月9日(水) 文教厚生委員会
- 12月10日(木) 総務委員会
- 12月14日(月) 最終日(議案採決)